

所 報

氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町4-9

(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8221 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail kyouikukenkkyu@city.himi.lg.jpホームページ [http://www.city.himi.toyama.jp/hp/](http://www.city.himi.toyama.jp/hp/menu000000500/hpg000000416.htm)[menu000000500/hpg000000416.htm](http://www.city.himi.toyama.jp/hp/menu000000500/hpg000000416.htm)

坐 辺 師 友

氷見市小学校校長会会長

氷見市立宮田小学校校長 辻本 正樹

朝、私はときどきほうきとちりとりを持って、某有名遊園地の清掃員のように校舎内をまわる。ごみを見付けると、少しの嬉しさとともに一抹の寂しさを感じる。「ここを今までに何人の人が通ったのだろう」と…。私も初めから清掃員のように校舎をまわったわけではない。ごみを見付けたとき、ある人の言葉が心に浮かんだ、「道に落ちているごみでさえ、いろいろ教えてくれる」と、ごみを拾おうか、それともそのまま見過ごそうか、心の中で葛藤が生まれる。その葛藤が嫌で、ほうきとちりとりを持つことにしたのである。掃除をしている私を見かけると「ありがとうございます。」とお礼を言う子供が出てきた。

そして、今では以前と比べ、ごみの数は、確実に減っている。私の知らないところでごみを落とさないように気を付ける子、ごみを見付けたら拾う人が増えていると信じる。

ごみのない美しい環境、ごみを拾うきれいな気持ちのある人に囲まれていると自然に心がやすらぎ、爽やかな気分になるだろう。

平成25・26年度の2年間、市小学校長会では、「子供と向きやすい環境づくり」に向け、市教委や教務主任会等と協力しながら、教職員の負担軽減に取り組んできた。その中のいくつかを紹介する。

- ①学級事務の効率化（通知表の学期毎の別葉化、平成27年度用児童出席簿の改良）
- ②市小学校長会の主催・共催事業の合理化（連合体育大会のスリム化、自作童話大会の輪番制、防犯卓球大会の見直し、水泳大会の学校別表示の中止）
- ③休休日に行われる各種大会への参加に関するサービスの改善（県小学生駅伝大会への協力体制の改善、夏季海岸補導の見直し、県書初大会への役員数の適正化）

これらは、些細なことかもしれないが、これらの負担軽減によって、教師の心に潤いが戻ってくることを願っている。

今から約30年前、新しく赴任した学校で、学年主任から「男子が大変なクラスと女子が大変なクラスがあるが、どちらを持ちたい？」と聞かれた。私は、「男子の方を持ちたい」と答えてしまった。その日から悪夢のような日々が始まった。毎日、喧嘩が絶えず、学校へ向かう足取りも重かった。

私は、みんなに怖がられ喧嘩の多いK児とサッカーをして遊ぶようにした。すると、次第に多くの男子が「混ぜて」と言って、遊びの輪に入ってきた。K児は、嬉しそうに「いいよ」と言う。K児の表情が次第に和らいできた。言わずと、クラス内のトラブルは減り、落ち着きを見せ始めた。後から聞いた話であるが、（学力で人間を評価するわけではないが、）この学年から、一流と言われる大学に何人も合格していると。子供のエネルギーが教師の力量を超えると「手に負えない」と感じるのだろうか。教師の力量を高めるには、まず、子供と一緒に遊び、子供と心を通わすが大切ではないだろうか。子供と心が通わなければ、教師がいくら素晴らしいことを言っても、子供の心には響かない。

市小学校長会が行った負担軽減の取組によって捻出された時間は僅かかもしれないが、ぜひ、子供との触れ合いに充ててほしい。

表題の言葉は、近代日本料理界・陶芸界において偉大な業績を遺した北大路魯山人が、常に自己の戒めとした座右の銘である。

優れたものに囲まれて生活していると、その心を自ずと学びとることができる。自分の周りのすべてが『師』であり、『友』である、という意味である。

教育も同様ではないか。子供にとってよい環境は『師』であり、『友』である。大人達は、子供にとってよりよい環境を創り出すことを第1義とすべきである。よい環境が整えば、それだけで教育の目的が半ば達成できたと言っても過言ではないだろう。後は、その環境に十分浸り、そのよさを心で感じることはないだろうか。

チーム支援推進委員会

支援をつなぐ 仲間をつなぐ

十三中学校 教頭 扇谷 孝代

少子化や情報化等の進展、家庭や地域の教育力の低下等が問題視されている昨今、児童生徒の問題行動が複雑化・多様化し、学校だけで対応していくことが困難な事例が多くみられるようになってきました。氷見市でも現実にはこうした事例に直面し、対応に四苦八苦しておられる先生方が少なからずいらっしゃるという話を聞いています。このような状況の中、今後ますます学校と関連機関等が互いに連携する必要性が高くなると考えられます。では、具体的にはどのように進めていけばよいのでしょうか。

本委員会では、実際にあった事例を使った対応の流れとポイント、外部支援機関と連携していくためのノーハウ等を掲載したリーフレットを作成しました。現場で児童生徒や保護者と直接相対し、対応に奮闘していらっしゃる先生方に、ぜひ活用していただきたいと思います。

学力向上推進委員会

一人一人に確かな学力を～「師問児答」から「児問児答」の授業を目指して

久目小学校 教頭 金原 礼子

学びを確かなものとし、学力向上へとつなげるためには、子供が主体的に学ぶ授業を保障することが大切です。換言すれば、「教師が問い児童生徒が答える授業」から、「児童生徒が問い児童生徒が答える授業」への転換と言えます。このような考えから、本委員会では、小中教員が連携し共に具体的な手立てを講じて動き出すことを標榜し、主体性や自己マネジメント能力を大切に「授業実践」並びに「小学校のまとめ」の改訂を行いました。



「授業実践」では、今、問われているアクティブ・ラーニング、インタラクティブな教育を視野に入れて取り組み、教師主導型からの脱却を目指しました。「小学校のまとめ」では、一人一人の子供たちが「基礎を鍛える」「自分を変える」を目指し、自立、見通し、達成感、夢をキーワードに、進んで学習に取り組み、分かる喜び、学ぶ喜びを味わってほしいと願っています。



ICT活用教育推進委員会

まずは、使ってみましょう - ICTのよさに触れる -

上庄小学校 教頭 鶴 賢行

情報機器の発達によって、私たちの生活環境も随分変わってきました。目に見えない大量の情報が空を飛び交うことが当たり前になっています。そのような環境の中で、力強く生きる力を育むためにはどのような学びが必要なのでしょう。本委員会では、全国の先進的な取組をもとに、今ある環境でどのように ICT を活用し、授業改善できるのかを探ってきました。

ICT活用によって「児童・生徒の学習意欲が高まること」「授業がさらに分かりやすくなること」などが分かってきました。児童・生徒にとっても、教師にとっても魅力的な機器です。さあ、授業でできるところから使ってみましょう。よりよい活用のアイデアは、きっと先生方の手の内にあります。リーフレットが皆さんの ICT 活用の一助となれば幸いです。



新規採用教員の一年を振り返って

子供たちの巣立ちを迎えて



比美乃江小学校 井上 真孝

私は、初任の年に6年生27名を担当させていただく機会を得た。卒業学年を担当する責任の重さに押し潰されそうになったこともあったが、いろいろな立場の先生方に教えられて乗り越えることができた。子供たちが巣立つ日が近づく今、一步一步成長していく子供たちを支えることのできる喜びを感じるとともに、私自身も教師として成長しなければと心が引き締まる思いでいる。中学生としての確かな一歩につながる締めくくりができるように共に歩んでいきたい。

学び続ける



北部中学校 林 宏次朗

平成26年4月に、教員としてのスタートを切ってから、あっという間に1年が過ぎた。徐々に学校に慣れていく一方で、分からないこともたくさんあった。その都度、先輩の先生方から教えていただき、助けられた。

普段から生徒にどんな言葉をかけるかが、とても重要だということを実感している。本年度は副担任だったが、今後は担任業務も担うことになるので、ますます生徒との関わり合いを大切にしたい。今後も研鑽を積み、常に学び続ける教員でありたい。

宝物となった一枚の手紙



窪小学校 鎌 千尋

A児が私を気遣って元気づけてくれた手紙が、私の宝物である。いつも私の呼び掛けに即座に受け答えしてくれるA児が、私の体調の小さな変化に気付き、私のために、今書ける精いっぱいの子で書いてくれた手紙だ。

この手紙を通して、言動を起こす背景にある子供の温かい思いを受け止め、寄り添っていくことが、子供を本当に理解し育むことだと気付いた。日々できることを増やし、たくさんのことに気付かせてくれる子供たちと歩める幸せに感謝し、共に成長していきたい。

人の温かさに触れて

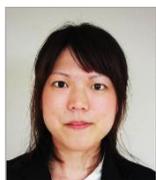


北部中学校 田中 千春

4月から再び故郷・氷見で生活を始め、ようやく慣れてきたこの頃である。この懐かしい氷見の人たちの温かさに触れ、人との繋がりの大切さを改めて実感することができた。教員11年目を迎え、若手教員の手本とならなければならない立場でもある。生徒とともに、まだまだ成長していかなければ、と考えさせられる1年であった。

富山の温かい風土の中で、日々視野を広くもち、新しい情報を取り入れ精進していきたい。

充実した一年間



上庄小学校 二口 美佐子

この一年、子供たちの心に寄り添い、一緒に考える養護教諭を目指して実践を重ね、充実した日々を過ごしてきた。保健指導や掲示物等では、子供たちの目線で内容を考え、工夫を凝らした。興味をもち、真剣に見つめ、考える子供たちの姿を見て、私自身さらに新たな指導法や環境づくりにも挑戦していきたいと感じた。養護教諭は「全校児童の担任」である。今後も児童一人一人との関わりを大切に、安心感を与えられる存在でありたいと思う。

生徒から学んだ1年間



西條中学校 松本 有未

初めて中学校で勤務し、最初は分からないことばかりだった。そんなとき、生徒に普段はどうしているのか、また授業ではどこが分からないのかなどと質問すると、生徒は積極的に教えてくれた。今年1年間、生徒が私の1番の先生だったように感じている。

来年度は教師として、人間としてさらに成長できるように、何事にも真摯に取り組みたい。また、時には生徒と同じ目線で物事を感じたり楽しんだりする姿勢を忘れずに、生徒と共に歩んでいきたい。

平成26年度 教育論文・教育実践記録募集の審査結果

今年度の教育論文・教育実践記録の募集に対して、小学校の部13編、中学校の部10編の個人やグループからの応募がありました。

今年度から小中校長会の協力を得て、小学校の部と中学校の部に分けて審査することになりました。より広い視野で適正かつ公正な審査を行い、小中学校それぞれの部門で最優秀賞1点、優秀賞2点が選出されました。その審査結果は下記のとおりでした。



[各部門別の審査の様子]

<小学校の部>

賞	学校名	氏名	研究主題（副題を除く）
最優秀賞	朝日丘小学校	山崎里美	荒れる子供たちから笑顔を引き出す指導はどうあればよいか
優秀賞	窪小学校	米田哲郎	個を大切にしている支援の在り方
優秀賞	久目小学校	東海紋加	他者との関係づくりを大切にしながら、自分の心や体と向き合う子供の育成

<中学校の部>

賞	学校名	氏名	研究主題（副題を除く）
最優秀賞	十三中学校	研究グループ	確かな学力を身に付けた生徒の育成
優秀賞	南部中学校	林誠	特別な教育的支援を必要とする生徒の自己肯定感を高める指導はどうあればよいか
優秀賞	西部中学校	山田真理子	自分の考えをもち、表現できる生徒の育成を目指して

以上の審査結果を基に、去る2月10日（火）に橋本昭雄教育委員長をはじめ教育委員各位を迎えて、表彰式が行われました。前辻教育長からの授賞後、西部教育事務所主任指導主事山田誠先生より講評をいただきました。最後に、最優秀賞受賞者の山崎里美教諭と十三中学校研究グループから教育実践についての発表がありました。詳細については、当センター発行の「平成26年度教育論文・教育実践記録集」をご覧ください。

